

# 淡路島のマイコトラガについて

登 日 邦 明

マイコトラガ *Maikona jezoensis* Matsumura は、前翅に典雅な斑紋を有し、春先にのみ出現するトラガ科の稀種で、松村(1928)が札幌より記録して以来、北海道函館市(中嶋, 1966)・山部町(有沢, 1968)、山形県鶴岡市、新潟県津川町(杉, 1958)・新津市秋葉山(村木, 1960)・添山・角田山麓(石塚, 1971)・佐渡島白瀬、神奈川県伊豆大島(藤原・前波, 1966)、静岡県大滝温泉(岩田, 1962)、長野県白骨温泉(安藤, 1968)・島々谷、福井県武生市(永井・徳永, 1967)、石川県金沢市(小坂, 1976)、岐阜県神岡町(洞口, 1966)、和歌山県新和歌の浦(佐藤・1965)など、北海道中・南部と東北地方から近畿地方まで主として日本海側と内陸部に分布し、四国からは、徳島県眉山(永井, 1965)より記録がある。また、対馬からも発見されている。屋久島小杉谷(杉, 1973)からも採集されているが、これは亜種 *tenebricosa* Inoue とされている。

淡路島からは、筆者(1973)が洲本市中津川より1♀を記録したが、これが兵庫県下初の記録であった。

淡路島ではその後、藤富正昭氏と林 俊雅氏によって洲本市厚浜と宇山から複数個体が採集されており、その概要については筆者が既に記録(島の生きものたち、神戸新聞出版センター刊、1982)しているが、採集データの詳細を公表していなかったのと、その後もさらに新たな産地が発見されているので、現在までのすべての記録を整理しておきたいと思う。

尚、データ中の略号MFは藤富正昭氏、THは林 俊雅氏採集のものである。また、標本は、厚浜産の2♂は淡路農業技術センター昆虫研究室に保管されているが、他はすべて採集者の厚意により筆者が保管している。貴重な資料を提供された両氏に、厚くお礼申し上げたい。

## 採 集 記 録 一 覧

### 1. 洲本市中津川 [Nakatsugawa]

1♀, 7. VI. 1972 (登日, 1973)\*

\* 蛾類通信(73)に発表したものの再録であるが、淡路島における採集記録中では、最も遅いデータである。

### 2. 洲本市中川原町厚浜 [Atsuhama]

3♂, 19. III. 1974 (MF), 1♀, 29. III. 1974 (MF).

当時同地にあった県農業試験場淡路分場内の発生予察燈に飛来したもので、その後も調査を継続していたが、採集できないとのことである。

3. 洲本市宇山 [Uyama]

1 ♂, 27. Ⅲ. 1981 (TH), 1 ♀, 30. Ⅲ. 1981 (TH), 1 ♂, 17. Ⅲ. 1982 (TH),  
1 ♀, 28. Ⅲ. 1983 (TH).

いずれも神社の常夜燈に飛来したものであるが、同一場所で毎年発生が確認された点が興味深い。

4. 洲本市三熊山 [Mt. Mikumayama, alt. 133m]

1 ♂, 20. Ⅲ. 1983 (TH).

今回、新たに記録される産地であるが、従来記録があった宇山から約2km、中津川から約9km離れた位置にある。比較的大規模に照葉樹林が残存する同山の、北面登山道の中腹に落ちていた死骸を、林氏が捨てたものであるが、死後あまり日数を経ない状態のものであった。

5. 三原郡三原町八木 [Yagi]

1 ♂, 26. Ⅲ. 1982 (MF).

ここも今回新たに記録される産地であるが、同地にある淡路農業技術センターの窓に飛来したものを、藤富氏が採集したものである。三原平野のほぼ東端に位置し、周辺はほとんど田畑であり、植生面では注目すべきものはない。また、既知産地からはいずれも10km以上離れている。



Fig. 1 淡路島における  
マイコトラガの産地

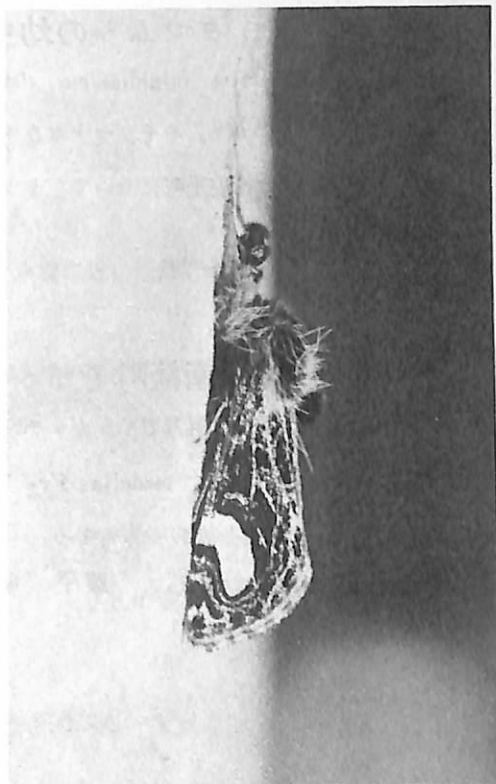


Fig. 2 静止するマイコトラガ —1982年  
3月・洲本市宇山— Photo: 林 俊雅

淡路島からは、現時点で上記のように5箇所から合計11個体の本種が発見されている。

このうち、最初の発見地である洲本市中津川をはじめ厚浜、宇山、三熊山には、規模の差はあれいづれも照葉樹林あるいは照葉樹林に移行する以前の比較的自然度の高い林があり、その林内あるいは林縁で本種が得られている。

このような事実から、本種は比較的自然度の高い森林の周辺に分布すると考えていたのであるが、三原町八木の産地は平野部で、周囲にも目ぼしい植生が見られないような場所であり、このような環境下での本種の発見は意外であった。

もっとも、本種の幼虫の食草としてはノブドウ *Ampelopsis heterophylla* Sied. et Zucc. が知られており、これは山野に広く見られる植物である。

従って本種は、発生時期が早春であること、個体数が比較的少ないことなどから従来より稀な種とされてきたが、決して分布が極限される珍稀な種ではなく、少なくとも淡路島に関しては、中・南部地域に広く分布する種であるといえる。現時点では北部地域から記録がないが、恐らく分布するものと思われる。引き続き会員諸兄の協力を得て、調査を継続したいと考えている。

### タマムシの幼虫の食樹について

タマムシ *Chrysochroa fulgidissima* の幼虫の食樹としては、これまでにサクラ、ケヤキ、エノキ、カシ、シイ、カキ、モモ、ヤナギなどが記録されている。筆者は昨年（1983年）の1月から3月にかけて、洲本市安乎町において、ヤブニッケイとビワの枯木で本種の幼虫を多数確認したので報告しておく。

（堀田 久）

### 南淡町でイシガケチョウを採集

1982年10月24日、南淡町阿万でイシガケチョウ *Cryestis thyodamas madella* Fruhstorfer 1 ex. を採集したので報告する。

尚、標本は筆者が保管している。（藤平 明）

